

令和 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

資料 5 - 2

都道府県・
指定都市名

学校名

人権課題

対象学年・
取り扱った教科等

時数

目標・人権教
育のねらい

実施した内容

工夫した点

令和 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

事業成果

記載例

各項目、枠を広げて記載可能。ただし、各人権課題ごとに、可能な限り、2枚程度に収めること。

令和〇〇年度 人権教育研究推進事業 <人権教育>

人権課題ごとに作成するにあたり、複数の学年・複数の教科で取り扱った場合、特に注力したものを選択して作成することも可能。複数の教科等を記載することも可能。

都道府県・指定都市名	〇〇県	学校名	◇◇市 □□中学
人権課題	高齢者	対象学年・取り扱った教科等	中学3年生・総合的な学習の時間
		時数	

事業実施計画書の「3. 取り組む人権課題について」で取り組むこととした人権課題ごとに本様式を作成すること。

目標・人権教育のねらい

- ・ 高齢者への偏見や思い込みを取り除き、高齢者の人権を尊重し、共に生きる意識を育てる。
- ・ 高齢者に自分たちができることを話し合い、合意形成をはかったり、意思決定したりする取組を通じて、偏見・差別を許さない態度の育成に重点を置く。
- ・ 高齢者の現状や課題、高齢者を支援し擁護している機関の取組について理解を深める。
- ・ 高齢者に対する思いやりの心を持ち、親切にする意欲・態度を養う。

実施した内容

- ・ 家庭や地域での高齢者の生活の様子について話し合う。高齢者が持っている知恵や技、抱えている課題についてグループごとに詳しく調べる。(2時間)
- ・ 社会福祉協議会から高齢者の人権課題や取り巻く状況などについて話を聞く。高齢者の疑似体験を行い、高齢者に対する理解を深める(3時間)
- ・ 調べ学習や体験を通して学んだことをまとめ、交流する。自分たちにできることを考える。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・ 話し合いの際に、高齢者の様子について、詳細な情報を聞かないようにするなど、個人情報の取扱いに注意する。マイナス面だけでなく、プラス面に目を向け、意見を出させる。
- (地域や関係機関との連携)
- ・ 地元企業や地域の長寿会、近隣大学などに参画いただき、授業を実施した。具体的には、近隣大学の教授にオンラインで高齢社会の状況について講義をしていただいた。

各学校が指導上工夫した点、及び地域や関係機関との連携に際して工夫した点を記入する。

令和〇年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・ 社会科にて、基本的人権について学習した。その際には、総合的な学習の時間での指導内容とのつながりを意識し、総合的な学習の時間で学んだ内容を振り返らせながら社会科の指導を行った。

事業成果

- ・ 知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」
事業開始時：〇〇%⇒事業終了間際：〇〇%
【児童変容の分析】・・・
- ・ 価値・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」
事業開始時：〇〇%⇒事業終了間際：〇〇%
【児童変容の分析】・・・
- ・ 技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる。」
事業開始時：〇〇%⇒事業終了間際：〇〇%
【児童変容の分析】・・・

【例：上記のほか、実施地域において不登校児童生徒数の減少が見られた／子供たち同士が互いの気持ちを考え配慮する姿勢がみられるようになった。】

① 3側面ごとに設定した評価指標
② 評価指標に基づく児童の変容（数値または文言）
③ 児童の変容の分析
の3点について必ず記載すること。左記に追加して、各実施主体の判断で独自に指標を設定したり、定性的な成果を記述することは、差支えない。